

成人看護学実習における日本語版ECTBを用いた実習指導評価 — 学生と実習指導者による2018年度と2019年度の比較 —

Clinical Teaching Evaluation Using the Japanese ECTB in Clinical Practice of Adult Nursing
— Students and Practice Leaders in 2018 and 2019 —

本田 由美¹, 石井 あゆみ², 藤原 尚子³, 浅井 直子⁴, 棕本 義子⁵
武内 美恵⁶, 東 了美⁷, 新居 智子⁸, 植田 裕美子⁹

要旨

【目的】本研究では、看護学生と実習指導者による成人看護学実習の実習指導評価に関する分析を行い、効果的な実習指導に向けて示唆を得ることを目的とする。【方法】2018年度と2019年度に成人看護学実習を履修した学生269名と、その実習指導を担当した看護師290名を対象に、日本語版ECTB (Effective Clinical Teaching Behaviors) 評価スケール (以下、ECTBとする) 調査を行った。ECTB調査は得点が高いほど学生は効果的な指導を受けたと感じ、実習指導者は効果的な指導ができたと感じ自己評価していることを意味しているため、分析は学生と実習指導者の比較、学生評価、実習指導者の自己評価の前年度との比較のため、記述統計およびt検定を行った。【結果】2018年と2019年のECTBの結果は、学生評価の平均 (SD) 比較では3.81 (0.73) 対4.09 (0.58)と前年度より有意に高く ($p<0.01$)、実習指導者の評価は3.80 (0.55) 対3.92(0.52)と有意差はなかった。学生と実習指導者間の比較では4.09 (0.58) 対3.92 (0.52)と学生評価が有意に高かった ($p<0.05$)。2019年の「学生への理解」は指導者評価が4.01 (0.52)、学生評価が3.93 (0.71)と2018年と違い2019年は有意差がなかった。【考察】「臨地実習指導における役割一覧」の周知徹底を行うと共に、教員と指導者間で学生の「自己の目標と振り返り」の共有を行ったことにより、指導者と教員の役割がより明確となり、ECTB調査において学生評価が高くなったと考えられる。今後は、教員と看護師間で情報共有をしながら役割分担を継続し、学習環境を整え学生の学習意欲の向上を促す指導体制の確立が必要である。

キーワード：日本語版ECTB, 成人看護学実習, 看護学生, 実習指導者
Japanese ECTB, clinical practice of adult nursing, nursing students,
clinical teaching nurse

I. 緒言

看護学実習は、看護学教育最大の特徴であり、学生の基礎的な看護実践能力習得に不可欠な授業である (厚生労働省, 2011)。学生の看護実践能力を育成するためには、実践と思考を連動させなが

ら学ぶことができるようにする必要があり (船島, 2013)、より効果的な実習となるためには、実習施設と大学がともに実習指導について検討し、連携していく必要がある。

本学では、提携病院である実習施設との間で効果的な実習指導について検討を重ね、指導評価の

1	Yumi HONDA	千里金蘭大学	看護学部	看護学科
2	Ayumi ISHII	千里金蘭大学	看護学部	看護学科
3	Naoko FUJIWARA	四天王寺大学	看護学部	看護学科
4	Naoko ASAI	宝塚大学	看護学部	看護学科
5	Yoshiko MUKUMOTO	住友病院		
6	Mie TAKEUCHI	住友病院		
7	Satomi AZUMA	住友病院		
8	Tomoko NII	住友病院		
9	Yumiko UEDA	住友病院		

受理日：2020年9月4日
査読付

一環としてECTB調査を行い、「臨地実習指導における役割一覧」を作成し追加・修正を検討している。2018年は「学生への理解」の要素において学生評価 (3.66,SD.85) が指導者の自己評価 (3.92,SD.59) より低い結果 ($p<0.05$) となった (石井,2019)。2018年より実習環境の条件が3年次後期集約となった影響も考えられたが、各病棟における「臨地実習指導における役割一覧」の活用時期や実施状況に違いがあり、統一した指導が行えていなかったのではないかと考えられた。したがって、活用の時期や実施状況の統一を図り、「臨地実習指導における役割一覧」を用い、指導者の役割・責任と指導方法について、病院内及び学内での周知徹底を行い、実習では教員と指導者間で学生の「自己の目標と振り返り」の共有を行った。

本研究では、二ヶ年にわたる看護学生と実習指導者による成人看護学実習の実習指導評価に関する分析を行い、効果的な実習指導を検討する。

II. 研究目的

本研究では、2018年度と2019年度の成人看護学実習を履修した学生と実習指導に携わった看護師の実習指導評価の比較、2019年度のみ学生と実習指導に携わった看護師の実習指導評価の比較を通して、2019年度の実習指導評価の現状を明らかにし、実習指導への示唆を得ることを目的とする。

III. 研究方法

1. 実習の概要

成人看護学実習は、3年次生を対象とした3単位の実習科目である。成人看護学実習Ⅰは成人期における急性期・周手術期にある患者を対象とし、成人看護学実習Ⅱは長期にわたる療養生活や徐々に進行する慢性疾患を持つ患者を受け持つ各3週間の実習である。

2017年度までは、3年次の10月から12月と4年次の5月から6月に実習を行っていたが、2018年度からは、3年次の10月から翌年1月までの後期集約となり、各実習間のインターバルが短く、長い場合は1か月半も領域実習が続くというグループもみられた。2019年度の実習についても、2018年度と同様に3年次の10月から翌年1月まで成人看護学実習Ⅰ（急性期）と成人看護学実習Ⅱ（慢性期）を各3

週間行った。

成人看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習内容は、2017年と2018年、2019年に大きな変化はみられない。

2. 臨地実習指導における役割一覧

実習における役割を明示するものとして、「臨地実習指導における役割一覧」を作成し追加修正を重ねてきた。役割は、「師長または副師長」、「臨地実習指導者（主任）」、「日々の指導者」、「担当教員」の4つがあり、それぞれに実習前、実習中、実習後の各時期における役割を明示してある。2018年度から2019年度にかけての見直しでは、日々の指導者においては、「受け持ち患者の病棟カンファレンスに参加する機会を設け、学生の看護計画が実践できるように支援する」を変更し、「受け持ち患者の病棟カンファレンスに参加できるように支援する」、「学生もチームの一員であることを認識し、学生が立案した看護計画を必要時、ともに実践する」とした (表1)。また、臨地実習指導者（主任）の役割の中に、「日々の指導者が『患者へのベッドサイドケアを通した看護ケアの指導』の項目ごとに実践できているかを確認し、実践できていなければ指導・支援を行う」という一文が追加された。師長または副師長の役割には、実習後の適正な評価と指導として、「実習終了ごとに、臨地実習指導者とともに実習目的・目標に沿った評価を行い、課題を次の指導に繋げる」という一文が追加された。また「臨地実習指導における役割一覧」を用いて、いつ誰が誰に対して説明を行うのかが明示された。師長・副師長が臨地実習指導者へ、臨地実習指導者が日々の指導者となりうるスタッフに対して「臨地実習指導における役割一覧」を用いて、役割や責任について、あるいは指導方法についての説明を行うようになり、2019年度の実習が始まるタイミングで病院内での周知がなされた。

3. 用語の定義

実習指導者：成人看護学実習において、学生へ指導を行う主任看護師及び日々の指導担当看護師とした。

表 1. 「臨地実習指導における役割一覧」

	臨地実習指導者（主任）	日々の指導者	担当教員
実習中	<p>1. 実習指導者としての役割を担い実習における調整・指導を実施する</p> <p>2. 実習中における調整・指導 ①学生のレディネス把握 教員と教育上必要と思われる個々の学生に関する情報共有 ②受け持ち患者を教員・学生に紹介 ③実習オリエンテーション（病棟内オリエンテーション、患者の1日の療養の流れ、電子カルテの見方など） ④患者へのベッドサイドケアを通して看護ケアの指導（日々の指導者の項目2）に準ずる） ⑤受け持ち患者の病棟カンファレンスに参加できるように支援する ⑥計画内容の実施を通して達成感が得られるよう支援する ⑦学生カンファレンスへの参加・助言・指導 ⑧既存の知識と実践の場における看護過程の結びつけができるように支援する ⑨学生への心理的サポート ⑩学生の学びの会参加 ⑪インシデント・アクシデント時対応</p> <p>3. 指導者の実習指導方法を支援 ①日々の指導者が日々の指導者2)の役割を理解し項目ごとに実践できているか確認し実践できていない場合は指導・支援を行う ・学生が挨拶をしている時は学生の方を向いて挨拶を返すようにスタッフへ指導する ・指導者の行き過ぎた指導や困難場面への助言 ・指導者の指導が上手くできている点を具体的に伝える ・学生の計画発表や報告を聞く時は、学生が座ってできるようにし、10分以内を目安にするようスタッフへ指導する</p>	<p>1. 充実した実習ができるよう、役割モデルの実践を行う</p> <p>2. 患者へのベッドサイドケアを通して看護ケアの指導 ①患者を温かく受け入れる雰囲気をつくる ・学生が挨拶をしている時は、学生の方を向いて挨拶を返すようにする ・自ら担当の学生に名前を乗っけてから行動計画の打ち合わせを行い、日々の指導を開始する ・学生の計画発表や報告を聞く時は学生が座ってできるようにする ・学生と話をする時は視線を合わせ、相槌をうつ ・学生に積極的に困っていることがないか声をかける</p> <p>②当日の実習計画への助言（学生から報告を受け、ともに個別的な看護を考える） ・まずは目標が適していることを確認し、大きく方向性が違えば教員へ修正依頼する ・目標・行動計画・看護計画の発表を聞く時間は10分以内を目安とする ・必要な患者の情報を提供する ・計画内容の実施を通して達成感が得られるよう支援する ・学生もチームの一員であることを認識し、学生が立案した看護計画を必要時、共に実践する ・受け持ち患者の病棟カンファレンスに参加できるように支援する ③患者へのケアは学生とともに学生の技術・能力に合わせ、実施する ・技術は基本に沿って行い、個別性を考えられるよう支援する ④学生からの報告を受け、報告やアセスメントの方法について指導を行う ⑤学生の実習の態度や様子を臨地実習指導者や教員に連絡する ⑥必要に応じて学生のカンファレンスに参加し、助言を行なう ⑦インシデント・アクシデント時対応</p>	<p>1. 対象者及び学生にとって実りある実習にするために、臨地実習指導者・日々の指導者と協働して指導にあたる</p> <p>3. 学生に関する臨地実習指導者との情報共有 （学生のレディネス把握・臨地実習指導者と教育上必要と思われる個々の学生に関する情報を学生の理解を得て共有する） 4. 受け持ち患者に関する調整 ①臨地実習指導者より、患者の情報提供を受ける ②患者へ、実習の説明と同意を得、同意書への署名をもらう ③実習に関する患者の意見や質問に応じる ④実習により患者に過剰な負担が及んでいないかを確認する 5. 実習目標に応じた日々の学生指導 ①効率的・効果的に助言が受けられるよう、看護師からの助言を含め、10分以内に計画発表が終われるよう指導する ②指導者からの日々の指導場面やケア実施場面を見守り、学生の行動を評価し、指導する ③実習記録を通して、看護実践の思考を評価し、指導する ④効果的にカンファレンスが運営できるよう助言する ⑤看護計画を立案するのに役立てるために、可能であれば病棟カンファレンスに参加できるよう助言し、調整する ⑥学生に心理的サポートを提供する ⑦インシデント・アクシデントは実習要綱に基づき対応する 6. 臨地実習指導者（主任）および日々の指導者との連携 ①実習体制や実習方法に関する連絡・調整を行う ②学生の日々の学習状況や、思考と実践上の課題について情報共有する ③学生の看護計画と病棟の看護にずれが生じないよう、看護の方向性を打ち合わせる ④適切で効果的な指導について、適宜、日々の指導者にフィードバックする ⑤日々の指導者の指導について、実習目標以上のことを学生に求められていた場合、指導者にその旨を伝え、臨地実習指導者（主任）にも報告する ⑥実習目標に照らして、学生の到達度に関する情報提供を受け、成績評価に必要な事項として共通理解する</p>

一部抜粋（実習中）

4. 研究対象者

A大学の3年生で、2018年10月～2019年1月、2019年9月～2020年1月の期間に成人看護学実習Ⅰあるいは、成人看護学実習Ⅱを受講、または両方を受講した学生、2018年度のべ130名、2019年度のべ139名。2018年度の実習を指導した139名、2019年度の実習を指導した実習指導者（看護師及び主任看護師）140名を対象とした。

5. 調査時期

2018年度：2018年10月～2019年1月

2019年度：2019年10月～2020年1月

6. データ収集方法

1) 調査方法

ECTBによる無記名の自記式質問紙調査

2) 調査内容

(1) 2018年度、2019年度の実習指導者の実習指導行動に対する学生の評価（以下、学生評価とする）

(2) 2019年度の臨地実習指導者の実習指導行動に対する自己評価（以下、指導者評価とする）。

質問紙は、Zimmerman & Westfall (1988) が開発した評価票をもとに、中西ら (2002) が作成し、さらに影本ら (2004) が改変した日本語版ECTB評価スケールを用いた。この評価尺度は臨地実習における実習指導行動を評価するもので、4つの要素【実践的な指導】【理論的な指導】【学習意欲への刺激】【学生への理解】と、【要素外の項目】から成り、計43の細項目で構成されている。「5：いつもそうである」、「4：大体そうである」、「3：半分くらいそうである」、「2：あまりそうでない」、「1：全くそうでない」の5段階評価で、得点が高いほど学生は効果的な指導を受けたと感じ、看護師はその行動をとる頻度が高いことを意味している。

3) 質問紙の配布と回収

学生の質問紙は、臨地実習の最終日に教室で、実習を担当していない教員によって配布した。鍵のかかる回収ボックスを教室に設置し、同日の17時に一旦回収した。その後も提出できるように回収ボックスを1週間学内に

に設置した。

臨地実習指導者の質問紙は、すべての実習が終了した1月から2月にかけて、病院の業績評価に直接関係しない研究者から説明し、看護師に対しては、業績評価に関係する管理者が近づかない病棟内の場所を選定し鍵のかかる回収ボックスを設置した。主任看護師に対しては、病院の会議室に鍵のかかる回収ボックスを設置し回収した。回収ボックスは説明後1週間設置した。

7. 分析方法

各項目及び指導要素について、記述統計を行った。次に、2019年度の学生評価と2019年度の指導者評価の平均得点をt検定で比較した。さらに、2018年度の学生評価と2019年度の学生評価の平均得点、2018年度の指導者評価と2019年度の指導者評価の平均得点をt検定で比較した。統計処理にはSPSS Ver.26を用い、有意水準を5%未満とした。

8. 倫理的配慮

本研究は、千里金蘭大学の疫学研究倫理審査の承認（番号K19-018）を得て実施した。日本語版ECTBは製作者の許諾を得た。対象学生に対しては、実習終了後、科目責任者でない共同研究者により説明した。対象看護師に対しては、業務評価に直接関係のない共同研究者より説明した。研究の目的や方法、調査への参加は自由意思であること、質問紙の回収をもって研究に同意したとみなすこと、データは厳重に管理し、研究目的以外で使用しない事を口頭及び書面で説明した。特に、成績評価及び業務評価とは無関係であり、研究参加の有無によって不利益を生じないこと、無記名で回収し、回収した質問紙のデータ入力には業者に委託し統計的に処理されるため、匿名性を確保することを十分に説明した。質問紙は、設置した回収箱に回収することで、研究の任意性が保たれるように配慮し、研究者は回収箱に近寄らないことによって、研究参加の強制力が働かないように留意した。

IV. 結果

A大学3年生、2018年度130名、2019年度139名

のうち欠損値のない2018年度72名（回収率55.4%）、2019年度105名（回収率75.5%）を学生評価の有効回答とした。

臨地実習指導者、2018年度176名、2019年度169名のうち欠損値のない2018年度83名（回収率47.1%）、2019年度中114名（回収率67.5%）を指導者評価の有効回答とした。

1. 2019年度の学生評価と指導者評価の比較

2019年度の学生評価と指導者評価の全項目の平均値（SD）の比較では、学生と指導者間で4.09（0.58）対3.92（0.52）と学生評価のほうが指導者評価より有意に高かった（ $p<0.05$ ）。ECTBの43項目のうち24項目において学生評価と指導者評価には有意差がみられた（ $p<0.05$ ）（表2参照）。有意差がみられた24項目のうち21項目は、学生評価のほうが指導者評価より高かった。また24項目のうち3項目、【学生への理解】の問10「学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか」、問11「学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか」と問17「学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っていますか」が学生評価のほうが指導者評価より低かった。

2. 2018年度と2019年度の学生評価の比較

2018年度と2019年度の学生評価の平均値（SD）の比較では、3.81（0.73）対4.09（0.58）と2019年のほうが有意に高く（ $p<0.01$ ）、43項目のうち27項目で2019年度のほうが有意に高かった（ $p<0.05$ ）（表3参照）。有意差がみられた項目のうち得点差が大きい上位5項目は、問25「記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか」3.13（1.26）対3.69（1.05）、問32「患者様と良い人間関係をとっていますか」4.10（0.87）対4.64（0.57）、問38「学生に良い刺激となるような話題を投げかけていますか」3.64（1.05）対4.12（0.91）、問39「（病棟の看護師間で）指導の方法は統一していますか」3.14（1.24）対3.62（1.15）、問42「学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか」3.79（1.02）対4.28（0.73）であった。

3. 2018年度と2019年度の指導者評価の比較

指導者評価の2018年度と2019年度の比較では、全項目の比較では、3.80（0.55）対3.92（0.52）と有意差はなかった（表4参照）。細項目のうち、問35「学生自身が自己評価をできやすくするように働き

かけていますか」、問13「学生同士で自由な討論ができるようにしていますか」、問39「（病棟の看護師間で）指導の方法は統一していますか」、問36「担当指導教員と良い人間関係を保っていますか」の4項目に有意差がみられた（ $p<0.05$ ）。

V. 考察

1. 学生評価と指導者評価の比較

学生評価と指導者評価の比較では、学生評価が指導者評価より高く、要素間においても、4要素中の3要素【実践的な指導】、【理論的な指導】、【学習意欲への刺激】と【要素外項目】は、指導者評価よりも学生評価のほうが高かった。いずれも要素の平均点は4.0以上であり藤堂ら（2011）が示している普通以上の評価であった。また、山中ら（2017）や影本ら（2008）の報告においても、指導者評価より学生評価のほうが高いという報告があり、本研究も同様の結果であった。舟島（2013）は、「看護学の初学者である学生の実践は、講義、演習を通して学習した原則に従っており、状況に応じた柔軟な対応が困難であるという特徴」を持ち、同時に、「3年から5年以上の経験を有する看護師は、状況を全体として捉え直感的に把握して行動するという特徴を持つために、学生には理解困難な可能性がある」と述べている。学生は看護を実践する上で、指導者に助言・指導を受け多くの学びを得られたことから学生評価が高いと考えられる。一方、指導者は、さまざまな状況を把握し、実践をしていることや、多くの業務を抱えながら学生指導をしていることから、学生指導に対する不十分な点に注目しやすいのではないかと考えられる。指導者の自己評価が低いことについて、今後は原因と対策の検討が必要であると考えられる。

要素間で唯一、学生評価と指導者評価の差がみられなかった項目が、【学生への理解】である。これは先行研究においては、指導者評価が学生評価よりも高い報告（影本，2008；山本，2014；山中，2017；石井，2019）がされており、本研究では先行研究と違う結果となった。影本（2008）は、学生は指導者が思っている以上に実習に対して不安が強く、指導者は「学生の困難について理解すること」や、学生に対して「思いやりのある姿勢を持つことが必要である」と述べている。A大学では、これまで実習施設と検討を重ねてきた「臨地実習指導における役割一覧」の項目に、「学生を温かく

表2. 学生評価と指導者評価の比較

		2019年度				
		学生評価		指導者評価		
		n=105		n=114		
		平均値	SD	平均値	SD	
全項目		4.09	0.58	3.92	0.52	*
実践的な指導		4.11	0.57	3.86	0.54	**
問2	ケアの実施時に、(学生に) 基本的な原則を確認していますか？	4.21	0.74	4.14	0.75	
問12	専門的な知識を学生に伝えるようにしていますか？	4.33	0.67	4.18	0.61	
問16	学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	4.21	0.80	3.70	0.75	**
問21	理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけていますか？	4.10	0.80	3.79	0.75	**
問25	記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	3.69	1.05	3.22	1.03	**
問31	必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示していますか？	4.11	0.88	4.11	0.71	
理論的な指導		4.68	0.62	3.83	0.58	**
問5	学生に対し客観的な判断をしていますか？	4.34	0.79	4.25	0.64	
問6	看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	4.40	0.69	4.14	0.73	**
問7	学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけていますか？	4.43	0.71	4.10	0.69	**
問14	学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援していますか？	4.43	0.68	3.92	0.72	**
問19	より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	2.92	1.38	3.27	1.11	*
問20	学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか？	4.16	0.84	3.74	0.76	**
問24	記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか？	3.79	1.03	3.37	1.06	**
学習意欲への刺激		4.13	0.64	3.88	0.58	**
問8	カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？	4.45	0.66	3.97	0.83	**
問15	学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？	4.18	0.83	3.82	0.71	**
問18	学生が実施してよい範囲・事柄を実習の過程に応じて明確に示していますか？	3.93	0.88	3.98	0.72	
問23	学生がより高いレベルに到達できるような対応をしていますか？	4.24	0.73	3.81	0.77	**
問27	学生が新しい体験ができるような機会を作っていますか？	3.98	1.00	3.79	0.80	
問30	実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけていますか？	3.98	0.98	3.24	1.06	**
問33	学生が新しい状況や今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしていますか？	4.20	0.83	3.98	0.66	*
問35	学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか？	4.05	0.84	3.93	0.74	
問37	学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか？	3.99	0.91	3.99	0.79	
問38	学生に良い刺激となるような話題を投げかけていますか？	4.12	0.91	3.89	0.76	*
問41	学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか？	4.06	0.96	3.90	0.68	
問42	学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか？	4.28	0.73	4.11	0.66	
問43	学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか？	4.29	0.74	4.04	0.64	**
学生への理解		3.93	0.71	4.01	0.52	
問4	学生に対し（裏表なく）率直ですか？	4.35	0.77	4.39	0.60	
問9	学生に対し思いやりのある姿勢でかわっていますか？	4.19	0.79	4.17	0.65	
問10	学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？	4.12	0.82	4.33	0.60	*
問11	学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか？	3.43	1.10	4.10	0.79	**
問13	学生同士で自由な討論ができるようにしていますか？	4.32	0.78	3.45	1.04	**
問17	学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っていますか？	3.36	1.05	3.89	0.80	**
問22	学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか？	4.08	0.99	4.12	0.67	
問26	学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしていますか？	3.78	1.03	3.75	0.88	
問28	物事に対して柔軟に対応していますか？	3.96	0.96	3.97	0.72	
問34	学生の言うことを受け止めていますか？	4.07	0.88	4.18	0.64	
問39	（病棟の看護師間で）指導の方法は統一していますか？	3.62	1.15	3.81	0.76	
問40	学生に対し、忍耐強い態度で接していますか？	3.89	1.07	3.97	0.77	
要素外の項目		4.39	0.51	4.00	0.58	**
問1	学生に実習する上での情報を提供していますか？	4.35	0.66	4.31	0.69	
問3	グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしていますか？	4.55	0.62	3.85	0.90	**
問29	実習の展開経過において、適切なアドバイスをしていますか？	4.36	0.76	3.83	0.73	**
問32	患者様と良い人間関係をとっていますか？	4.64	0.57	4.37	0.64	**
問36	担当指導教員と良い人間関係を保っていますか？	4.06	0.91	3.65	1.07	**
						* p <0.05 ** p <0.01

* p < 0.05 ** p < 0.01

成人看護学実習における日本語版ECTBを用いた実習指導評価

表3. 学生評価2018年度と2019年度の比較

		学生評価				
		2018年度		2019年度		
		n=72		n=105		
		平均値	SD	平均値	SD	
全項目		3.81	0.73	4.09	0.58	**
実践的な指導		3.84	0.69	4.11	0.57	**
問2	ケアの実施時に、(学生に) 基本的な原則を確認していますか？	4.07	0.78	4.21	0.74	
問12	専門的な知識を学生に伝えるようにしていますか？	4.03	0.80	4.33	0.67	**
問16	学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	4.08	0.95	4.21	0.80	
問21	理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけていますか？	3.92	0.78	4.10	0.80	
問25	記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	3.13	1.26	3.69	1.05	**
問31	必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示していますか？	3.83	0.90	4.11	0.88	*
理論的な指導		3.80	0.74	4.07	0.62	*
問5	学生に対し客観的な判断をしていますか？	4.08	0.87	4.34	0.79	*
問6	看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	4.06	0.92	4.40	0.69	**
問7	学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけていますか？	4.15	0.93	4.43	0.71	*
問14	学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援していますか？	4.06	0.82	4.43	0.68	**
問19	より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	3.08	1.18	2.92	1.38	
問20	学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか？	3.79	1.01	4.16	0.84	*
問24	記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか？	3.39	1.15	3.79	1.03	*
学習意欲への刺激		3.82	0.77	4.13	0.64	**
問8	カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？	4.15	0.96	4.45	0.66	*
問15	学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？	3.93	1.05	4.18	0.83	
問18	学生が実施してよい範囲・事柄を実習の過程に応じて明確に示していますか？	3.72	0.92	3.93	0.88	
問23	学生がより高いレベルに到達できるような対応をしていますか？	3.90	0.84	4.24	0.73	**
問27	学生が新しい体験ができるような機会を作っていますか？	3.86	1.07	3.98	1.00	
問30	実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけていますか？	3.75	0.98	3.98	0.98	
問33	学生が新しい状況や今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしていますか？	3.82	0.92	4.20	0.83	**
問35	学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか？	3.76	0.94	4.05	0.84	*
問37	学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか？	3.67	0.98	3.99	0.91	*
問38	学生に良い刺激となるような話題を投げかけていますか？	3.64	1.05	4.12	0.91	**
問41	学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか？	3.78	1.02	4.06	0.96	
問42	学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか？	3.79	1.02	4.28	0.73	**
問43	学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか？	3.89	0.94	4.29	0.74	**
学生への理解		3.66	0.85	3.93	0.71	*
問4	学生に対し（裏表なく）率直ですか？	4.03	1.02	4.35	0.77	*
問9	学生に対し思いやりのある姿勢でかわっていますか？	3.85	1.03	4.19	0.79	*
問10	学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？	3.68	1.12	4.12	0.82	**
問11	学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか？	3.29	1.29	3.43	1.10	
問13	学生同士で自由な討論ができるようにしていますか？	4.06	0.82	4.32	0.78	*
問17	学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っていますか？	3.35	1.04	3.36	1.05	
問22	学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか？	3.71	1.14	4.08	0.99	*
問26	学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしていますか？	3.46	1.13	3.78	1.03	
問28	物事に対して柔軟に対応していますか？	3.78	0.94	3.96	0.96	
問34	学生の言うことを受け止めていますか？	3.75	1.00	4.07	0.88	*
問39	(病棟の看護師間で) 指導の方法は統一していますか？	3.14	1.24	3.62	1.15	**
問40	学生に対し、忍耐強い態度で接していますか？	3.81	1.00	3.89	1.07	
要素外の項目		4.11	0.65	4.39	0.51	**
問1	学生に実習する上での情報を提供していますか？	4.06	0.82	4.35	0.66	**
問3	グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしていますか？	4.42	0.76	4.55	0.62	
問29	実習の展開経過において、適切なアドバイスをしていますか？	3.97	0.96	4.36	0.76	**
問32	患者様と良い人間関係をとっていますか？	4.10	0.87	4.64	0.57	**
問36	担当指導教員と良い人間関係を保っていますか？	3.99	0.85	4.06	0.91	

* p < 0.05 ** p < 0.01

* p < 0.05 ** p < 0.01

表4. 指導者評価2018年度と2019年度の比較

		指導者評価			
		2018年度		2019年度	
		n=75		n=114	
		平均値	SD	平均値	SD
全項目		3.80	0.55	3.92	0.52
実践的な指導		3.78	0.60	3.86	0.54
問2	ケアの実施時に、(学生に) 基本的な原則を確認していますか？	4.19	0.85	4.14	0.75
問12	専門的な知識を学生に伝えるようにしていますか？	4.12	0.70	4.18	0.61
問16	学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	3.60	0.75	3.70	0.75
問21	理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけていますか？	3.60	0.92	3.79	0.75
問25	記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	3.23	1.05	3.22	1.03
問31	必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示していますか？	3.95	0.77	4.11	0.71
理論的な指導		3.74	0.60	3.83	0.58
問5	学生に対し客観的な判断をしていますか？	4.29	0.61	4.25	0.64
問6	看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	4.11	0.73	4.14	0.73
問7	学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけていますか？	4.07	0.64	4.10	0.69
問14	学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援していますか？	3.72	0.75	3.92	0.72
問19	より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	3.11	1.17	3.27	1.11
問20	学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか？	3.67	0.88	3.74	0.76
問24	記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか？	3.24	1.01	3.37	1.06
学習意欲への刺激		3.76	0.61	3.88	0.58
問8	カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？	3.96	0.74	3.97	0.83
問15	学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？	3.77	0.81	3.82	0.71
問18	学生が実施してよい範囲・事柄を実習の過程に応じて明確に示していますか？	3.88	0.77	3.98	0.72
問23	学生がより高いレベルに到達できるような対応をしていますか？	3.60	0.82	3.81	0.77
問27	学生が新しい体験ができるような機会を作っていますか？	3.80	0.84	3.79	0.80
問30	実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけていますか？	2.97	1.08	3.24	1.06
問33	学生が新しい状況や今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしていますか？	3.89	0.71	3.98	0.66
問35	学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか？	3.65	0.74	3.93	0.74
問37	学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか？	3.85	0.75	3.99	0.79
問38	学生に良い刺激となるような話題を投げかけていますか？	3.68	0.77	3.89	0.76
問41	学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか？	3.81	0.77	3.90	0.68
問42	学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか？	4.01	0.73	4.11	0.66
問43	学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか？	3.96	0.71	4.04	0.64
学生への理解		3.87	0.59	4.01	0.52
問4	学生に対し(裏表なく)率直ですか？	4.31	0.64	4.39	0.60
問9	学生に対し思いやりのある姿勢でかわっていますか？	4.01	0.74	4.17	0.65
問10	学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？	4.35	0.67	4.33	0.60
問11	学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか？	3.96	0.81	4.10	0.79
問13	学生同士で自由な討論ができるようにしていますか？	2.99	1.11	3.45	1.04
問17	学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っていますか？	3.68	0.86	3.89	0.80
問22	学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか？	4.08	0.73	4.12	0.67
問26	学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしていますか？	3.59	0.93	3.75	0.88
問28	物事に対して柔軟に対応していますか？	4.03	0.70	3.97	0.72
問34	学生の言うことを受け止めていますか？	4.12	0.68	4.18	0.64
問39	(病棟の看護師間で) 指導の方法は統一していますか？	3.53	0.91	3.81	0.76
問40	学生に対し、忍耐強い態度で接していますか？	3.81	0.77	3.97	0.77
要素外の項目		3.83	0.57	4.00	0.58
問1	学生に実習する上での情報を提供していますか？	4.19	0.65	4.31	0.69
問3	グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしていますか？	3.67	1.00	3.85	0.90
問29	実習の展開経過において、適切なアドバイスをしていますか？	3.76	0.69	3.83	0.73
問32	患者様と良い人間関係をとっていますか？	4.29	0.63	4.37	0.64
問36	担当指導教員と良い人間関係を保っていますか？	3.24	1.00	3.65	1.07

* p < 0.05 ** p < 0.01

受け入れる雰囲気を作る」、「実施の際は、学生が立案した看護計画をできるだけ尊重し、アドバイスを追加して行う」など、学生が安心して実習を行えるように配慮する項目がある。また、「臨地実習指導における役割一覧」の活用により、指導者や教員の役割がより明確になり、教員と指導者間で学生の情報共有が深まったことから、学生への理解につながったと考えられる。

一方、問10「学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか」や問11「学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか」、問17「学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っていますか」においては、学生評価のほうが指導者評価より低いという結果がみられた。これは、指導者が煩雑な業務の中で学生指導の時間調整が困難な状況があると推察される。「臨地実習指導における役割一覧」には、「学生に積極的に困っている事がないか声をかける」という項目があり、指導者が意識するように心がけていたが、まだ学生の緊張感は強く、質問しづらい状況がうかがえる。出石（2019）は、「学生が看護師に話しかけづらい環境を指導者自身も気にかけており、《教員との連携・協働》を行う事によって、学生が安心して実習でき、指導内容の統一が保てると考えている」と報告している。教員と指導者間の情報の共有などの関わりを通して、学生が緊張緩和できるように環境の調整や話しやすい雰囲気づくりを行い、より良い実習指導につなげていく必要がある。

2. 2018年度と2019年度の指導者評価・学生評価の比較

年度の違いによる比較では、指導者評価の大きな差はなかったが、43項目のうち4項目において有意差がみられ、その4項目が2018年度より2019年度が高いという結果であった。これは「臨地実習指導における役割一覧」の中に、いつどのように活用するのかを明示し周知徹底を病院内で行ったことで、問39「（病棟の看護師間で）指導方法の統一はしていますか」が有意に高いという結果となったと思われる。

問13「学生同士で自由な討論ができるようにしていますか」や問35「学生自身が自己評価をできやすくしていますか」が高いという結果は、指導者の学生への指導が、学生が主体的と考えられるような指導へと変化していることが推察される。役割の中に追記されたように、臨地実習指導者（主

任）からの指導・支援が受けられたことや教員と指導者間で、実習中に学生の「自己の目標と振り返り」の共有を行ったことで、指導者の学生個々の学習状況の理解につながり、指導に活かせたと考える。

学生評価の43項目のうち27項目において有意差があり、それらは2018年度より2019年度が高いという結果であった。2018年と2019年では、実習内容に関する変化はなかったため、実習内容による影響は考えられない。またデータ収集方法における変更もない。「臨地実習指導における役割一覧」を統一して活用できるように周知徹底を行ったこと、教員と指導者において学生の「自己の目標と振り返り」の共有を行ったことにより、それぞれの役割が協働して学生指導を行えたのではないかと考える。

学生評価の有意差のあった得点差の大きい項目では、問42「学生の受け持ち患者様とその患者様へのケアに関心を示していますか」があり、「臨地実習指導における役割一覧」の中で、日々の指導者の役割として、学生が「受け持ち患者の病棟カンファレンスに参加できるように支援する」と明記されたことで、意識され、学生の患者へのケアに対する関心が高まった結果高値となった可能性がある。そうしたケアへの関心が示されることによって、問38「学生に良い刺激となるような話題を投げかけていますか」の項目も高くなったと考える。問25「記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか」については、師長（副師長）とともに「実習終了ごとに、臨地実習指導者とともに実習目的・目標に沿った評価を行い、課題を次の指導に繋げることによって、学生の指導のタイミングをつかめるようになったと推測される。

細田（2004）は、実習指導者は、実習指導上の困難として、学生との関りが難しいといった「実習指導者自身の力量に関する困難」や、学生の指導と業務を調整するのが難しい、実習目標の到達レベルを理解できないといった「学習環境・学習内容に関する困難」を抱えていると報告している。そうした実習指導者の困難感が指導や支援を受けることによって、緩和され学生の指導が改善されたと推測する。

今後は、「臨地実習指導における役割一覧」の活用を定着させ、教員と指導者の間で情報共有をさらに強化するとともに、それぞれの役割分担を継

続し、学生の学習環境を整え、学生の学習意欲の向上を促す指導体制の確立が必要である。

IV. 結論

成人看護学実習において日本語版ECTBを用いた実習指導評価に関して検討した。本研究において、以下の結論を得た。

1. 2019年度の成人看護学実習におけるECTBの結果では、学生評価のほうが指導者評価より有意に高く、指導要素間では「学生への理解」において有意差がなかった。学生評価平均は4.09 (SD0.58) と高値を示した。
2. 2018年度と2019年度のECTBの結果では、学生評価は有意に高くなっていたが、指導者評価は差がなかった。
3. 2019年度は「臨地実習指導における役割一覧」の活用によって、指導は統一されていた。
4. 「臨地実習指導における役割一覧」を活用した役割分担と、教員と指導者間での情報共有は、学習環境を整え、学生の意欲の向上を促す指導体制の確立に必要である。

謝辞

本研究にご協力くださいました看護学生の皆様、実習施設の看護師の皆様に心より感謝申し上げます。

本研究は千里金蘭大学奨励研究の助成を受けて実施した。

文献

- 舟島なをみ監修. (2013). 看護学教育における授業展開. 医学書院. 60-62
- 市川裕美子, 坂本弘子, 佐藤真由美, 木村紀美. (2019). 学生が捉えた成人看護学実習の評価と評価に関連する要因. 八戸学院大学, 58, 139-147
- 石井あゆみ, 岩佐美香, 長谷川幹子, 藤原尚子, 武内美恵, 池添知夏, 岡井純子, 阿曾多由子. (2019). 成人看護学実習における効果的な実習指導行動の検討-ECTBをもちいた学生評価と看護師自己評価の比較-. 千里金蘭大学紀要, 16, 153-158
- 影本妙子, 合田友美, 大島亜由美, 中西啓子. (2008). 成人看護学慢性期・終末期の実習指導の分析-ECTB評価スケールを用いて-. 川崎医療短期大学紀要, 28, 27-31

- 影本妙子, 中西啓子, 角名香代, 合田友美. (2004). Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析-第2報-. 川崎医療短期大学紀要, 24, 19-24
- Lani Zimmerman&John Westfall. (1988). The Development and Validation of a Scale Measuring Effective Clinical Teaching Behaviors. Nursing Education, 27(6), 274-277
- 厚生労働省, 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書 (2011). 2020年8月22日閲覧
https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000013_log-att/2r9852000001314_m.pdf
- 中西啓子, 影本妙子, 林千加子, 角名香代, 合田友美. (2002). Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析-第1報-. 川崎医療短期大学紀要, 22, 19-24
- 藤堂由里, 近藤栄津子, 影本妙子, 濱松恵子, 中西啓子. (2011). 学生による成人看護学慢性期・終末期の実習指導評価. 川崎医療短期大学紀要, 31, 33-38
- 細田泰子, 山口明子. (2004). 実習指導者の看護学実習における指導上の困難とその関連要因. 日本看護研究学会雑誌, 27(2), 67-75.
- 山本純子, 伊藤朗子, 中本明世, 松田藤子, 門千歳, 横溝志乃. (2014). 日本語版ECTBを用いた成人看護学実習の実習指導評価-看護学生と実習指導者 実習指導者の役割による比較から-. 千里金蘭大学紀要, 11, 121-129
- 山中政子, 平賀元美, 岩佐美香, 長谷川幹子, 池添知夏, 村上理恵, 武内美恵, 阪田素子. (2017). 成人看護学実習中の実習指導行動に対する学生評価と看護師評価. 千里金蘭大学紀要, 14, 117-125